

## ■第3次伊賀市障がい者福祉計画 令和2年度事業実績シートまとめ

## 6段階評価(達成率)

- AA 計画の内容を100%を超えて実施
- A 計画の内容を100%実施
- B 計画の内容を70%以上100%未満実施
- C 計画の内容を50%以上70%未満実施
- D 計画の内容を50%未満実施
- E 計画の内容を未実施

## 目標Ⅰ 一人ひとりに応じた生活支援のしくみをつくる

事業実施課	計画	達成率						
		AA	A	B	C	D	E	なし
合計	34	7	10	5	1	6	4	1

## 目標Ⅱ 生涯を通じて社会参加できる共生のしくみをつくる

事業実施課	計画	達成率						
		AA	A	B	C	D	E	なし
合計	45	10	10	14	5	5	1	0

## 目標Ⅲ だれもが心地よく安心して暮らせるまちをつくる

事業実施課	計画	達成率						
		AA	A	B	C	D	E	なし
合計	25	1	9	3	3	8	1	0

総合計	総数	AA	A	B	C	D	E	なし
		104	18	29	22	9	19	6

## 目標 I 一人ひとりに応じた生活支援のしくみをつくる

新型コロナウイルス感染症拡大により、多くの事業が中止や規模を縮小しての実施となりました。

市ホームページでは、新型コロナウイルス感染症情報やイベント等情報、各部署における郵送手続きに関する紹介など新型コロナウイルス感染症関連ページの閲覧が多く、例年に比べアクセス数が増加しました。

また、従来の事業ができないことから、行政情報番組やYouTube、オンライン研修など新しい方法で取り組まれた事業も多くあります。

以下は、目標 I の新しい取り組み等を抜粋しました。

目標 I	基本方針	基本計画	計画ページ	方向性	事業実施課	R2年度事業予定	事業の実施内容及び効果・課題
I 一人ひとりに応じた生活支援のしくみをつくる	1 情報提供と相談支援の充実	(2) 総合相談支援体制の確立	19	③ ピアカウンセリングの推進	障がい福祉課	伊賀圏域障がい福祉連絡協議会精神障がい地域包括ケアシステムWGなどで、ピアサポーターを活用した地域啓発の検討を行います。	精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムを構築するために、グループホーム(共同生活援助)利用者聴き取り調査を実施した。対象:32人  また、ピアサポーター1名に第4次障がい者福祉計画策定委員として参画いただき、さまざまな意見をいただくことができました。
	2 生活を支援するサービスの推進	(2) 家族介護者等への支援	24	② 介護者の交流や学習活動等への支援	介護高齢福祉課	伊賀市社会福祉協議会や社会福祉法人に委託し、認知症・介護予防事業の一つとして、介護者のための知識や介助法等の情報交換の場になるようなメニューを実施し、参加者の増加を図ります。	伊賀市社会福祉協議会や社会福祉法人に委託し、認知症・介護予防事業の一つとして、介護者のための知識や介助法等の情報交換の場になるようなメニューを実施し、参加者の増加を図りました。 介護者のための教室は、知識や情報交換の場になり、モチベーションの向上にも繋がることから、内容を含め、継続した情報発信・啓発を行っていくことが必要です。
		(3) 住まいの確保	25	② 地域での自立生活に向けた住宅確保の推進	住宅課	障がいのある人をはじめとする住宅確保要配慮者の自立生活に向けた住宅確保の支援を行うため、不動産関係団体、社協、NPOと協力して、三重県居住支援連絡会で協議をしていきます。また、住宅相談会を実施して福祉部局との連携を図ります。	・賃貸住宅相談会 住宅確保要配慮者の民間賃貸住宅への円滑な入居の促進を図ることを目的に、市内で賃貸住宅相談会を開催した。 相談件数が少なかったが、住宅確保要配慮者に対する物件情報の紹介、福祉相談・生活相談等の実施により、居住支援のあり方を考える機会を得ることができた。
	3 保健・医療・福祉分野の連携体制の強化	(1) 健康づくりへの支援	27	① 主体的な健康づくりの推進	健康推進課	健康づくりや介護予防をテーマとした出前講座を各地域の老人クラブや各種団体において開催。また、今年度は行政チャンネルを利用し、自宅でできる健康づくり「いが忍にんプロジェクト」を実施します。これらの機会を通して、日常生活の中で自分自身や家族の健康管理につながるよう支援します。  ・出前講座(行政チャンネルによる出前含)回数	今年度は行政チャンネルを利用し、自宅でできる子どもから高齢者までの健康づくりの5分間番組「いが忍にんプロジェクト」を実施しました。 「いが忍にん健康プロジェクト」は、まちの講師とタイアップして実施したため、まちの講師の活動のPRや様々な年代層にも健康づくりを考えてもらうきっかけになった。  ・出前講座回数 37回 ・まちの講師 10回 ・いが忍にんプロジェクト 43回

## 目標Ⅱ 生涯を通じて社会参加できる共生のしくみをつくる

年々相談内容が複雑化し、さまざまな部署が関わる事案が増えています。地域で一生涯生活していけるよう関係機関が、より連携を強化するための取組みが必要です。以下は、目標Ⅱの新しい取り組み等を抜粋しました。

目標Ⅱ	基本方針	基本計画	計画ページ	方向性	事業実施課	R2年度事業予定	事業の実施内容及び効果・課題
Ⅱ 生涯を通じて社会参加できる共生のしくみをつくる	2早期療育と保育の充実	(1)障がい児の早期療育の充実	33	②早期療育体制の充実	こども未来課	児童発達支援センターや専門医と定期的に検討を行い、関係機関との連携体制を強化し、必要な支援が受けられるような体制づくりを行います。	児童発達支援センターや専門医・関係機関等と連携し、医療的な視点から助言を受けたり、必要に応じ受診につなげるよう専門医への発達相談を定期的に行いました。保護者や学校に対し、子どもの発達特性への理解や接し方の支援方法について具体的に説明しました。必要時にはスムーズに療育へつなぐことができる体制を強化します。小学校等とのケース検討 16回 専門医とのケース検討 8回
			33	③発達に関する保護者等の理解の推進	健康推進課	こんにちは赤ちゃん訪問を実施し、早期から心身の発達について支援する母子保健事業を紹介し、事業への参加を促します。乳幼児相談や各種教室など発達段階に応じた母子保健事業を開催し、保護者からの発達や育児に関する相談を受けるとともに発達についての理解を促す機会とします。 ・こんにちは赤ちゃん訪問	感染予防対策と短時間の訪問により理解が得られ、対象すべての訪問が実施できました。乳幼児相談や各種教室なども回数や参加者数が制限される中、オンラインなど、より参加しやすい方法を検討し、保護者へ発達や育児に関する相談や情報提供の機会を増やすことが課題です。
	3学齢期の子どもへの教育・療育の推進	(2)放課後や長期休業中の活動の場の確保	37	②日中一時支援事業等障害福祉サービスの充実	障がい福祉課	障がいのある児童の日中一時支援事業を実施し、放課後や長期休業中の活動の場を確保します。	新型コロナウイルスの影響もあり、利用者および利用者実績はさらに急増しています。また、新型コロナウイルス対策として衛生用品の配付や、利用者負担補助事業を行いました。
	4就労支援の推進	(1)就労支援ネットワークの強化	38	①就労支援ネットワークの強化	障がい福祉課 商工労働課	伊賀圏域障がい福祉連絡協議会就労部会を開催し、各関係機関によるネットワークを強化するための協議を行い、障がいのある人の一般就労を支援します。	伊賀圏域障がい福祉連絡協議会就労部会「事業所連絡会」WG1において、就労事業所訪問を実施し、コロナ禍影響などの聴き取り等を行いました。23事業所より多くの関係機関と障がいのある人の就労支援のためのネットワークを充実させることができました。
		(2)企業等における障がい者雇用の推進	40	③行政機関での障がい者雇用の推進	人事課	障害者の雇用の促進等に関する法律及び施行令で地方公共団体に対し定められた雇用率達成に向け、障がい者の雇用を行います。採用選考に当たっては、障がい特性に配慮した選考方法を取り入れるとともに、障がいのある応募者へ要望の聴き取りを行うことで積極的な採用に努めます。	採用試験における障害区分の枠を廃止し、身体障がい者に比較して雇用が遅れている精神障がい者や知的障がい者の雇用促進に努めました。また、申込時には、障がい特性によって必要な配慮を記載してもらうこととしました。法定雇用率を満たしていますが、市職員として継続して働くことができるような職場環境の整備等、より一層の定着支援を図ることが必要です。
	(3)福祉的就労の推進	41	③優先調達の推進	障がい福祉課	市政運営会議等を活用し障がい者就労施設等の提供する物品・サービスの優先購入の調達目標達成のために取り組みます。	保・幼・小・中学生を対象とした新型コロナウイルス感染症防止対策のためのマスク配布事業に、市内就労系事業所がマスク製作等を行うなどの新しい取組みができました。就労系事業所が協力し市事業を行うことで、新型コロナウイルス感染症影響による事業所の収入減の対策とすることもできた。	
5社会参加活動の推進	(1)生涯学習等への参加の推進	43	①参加しやすい生涯学習等の推進	スポーツ振興課	誰もが気軽にスポーツに親しんでいただけるよう、障がいの有無にかかわらず楽しめる競技の普及に努めます。	新型コロナウイルスの影響で、毎年行っているスポーツフェスティバルは実施できなかったが、ユニバーサルスポーツのポッチャ体験教室を開催することができた。市内の福祉施設の利用者にも多く参加してもらうことができた。課題としては、施設のトイレなどのバリアフリー化が十分ではないため、今後改修するなどして改善が必要である。	

## 目標Ⅲ だれもが心地よく安心して暮らせるまちをつくる

災害時の支援体制づくりとして、「避難行動要支援者避難支援プラン」が見直され、一定の条件に該当する高齢者や障がい者などの「避難行動要支援者名簿」が作成されました。

また、災害時に備え地域との関係づくりや自主防災の取り組みに活用するため、住民自治協議会や民生委員などの避難支援等関係者へ個人情報を提供することへの同意書発送を行いました。

また、令和2年度はさまざまな計画策定の年であり、今後の市施策について協議がされました。

以下は、目標Ⅲの新しい取り組み等を抜粋しました。

目標Ⅲ	基本方針	基本計画	計画ページ	方向性	事業実施課	R2年度事業予定	事業の実施内容及び効果・課題
Ⅲ だれもが心地よく安心して暮らせるまちをつくる	1市民の理解と協働の推進	(1)障がいを理由とする差別の解消の推進	45	①障がいのある人の人権に関する理解と認識の啓発	人権政策課	障がいのある人の人権に関する理解と認識を深めるため、広報いが市やホームページのほか人権の集いなどさまざまな機会を通して積極的に発信していきます。 ・障がいのある人の人権に関わる発信回数（広報いが市・講演会・パネル展示等）	新型コロナウイルス感染拡大のため、講演会等の開催（支所含む）は中止となりましたが、ひゅーまんフェスタについては、新しい方法として「情報番組ウィークリーいが」を利用して、伊賀市障がい者福祉連盟の取り組みについて発信しました。 また、スポーツ少年団及び指導者に対して、障がい者差別につながる発言についての、理解促進を図りました。
		(2)障がいのある人を支援する地域福祉活動の推進	46	②身近な地域での助け合い活動の推進	医療福祉政策課	地域福祉ネットワーク会議の未設置地区の解消とともに、設置された地域での活性化のために、連絡会を設立して横の連携が出来るようにしていくとともに、地域において拠点となるプラットフォームづくりの準備を進めていきます。	地域福祉ネットワーク会議（協議体）間の相互連携や情報交換を図るための連絡会を設置し、メーリングリストにより情報を共有することに努めました。 また、地域福祉ネットワークフォーラムをオンラインで開催しました。
2快適で安全なまちづくりの推進	(1)ユニバーサルデザインのまちづくりの推進		48	①ユニバーサルデザインの普及・啓発の推進	医療福祉政策課	ユニバーサルデザイン庁内推進委員会を活用し、市職員の理解度を上げるだけでなく、市民へユニバーサルデザインの理念を広げていくための取組みを検討します。	市民を対象に「ユニバーサルデザインに関する庁舎アンケート」を実施しました。新庁舎に関して初めての市民アンケートを実施したことにより、ユニバーサルデザインについて市民周知に繋げることができました。今後も継続的に行っていきたいと考えます。
			48	③ユニバーサルデザインの理念に基づいた事業の推進	広聴情報課	わかりやすい広報紙や行政情報番組を作成します。	広報紙を月1回発行とし、1号あたりの記事量が増えたことから、より簡潔でわかりやすい文章にするよう努めました。また、受け取る情報量が減少しないように、各記事に二次元コードを付記しホームページに誘導しました。 作成した番組をYouTubeで公開し、情報取得方法の多様化に対応しました。